

日本大学 桜樹会会報

第 11 号

昭和49年5月

日本大学桜樹会

目 次

外国選手による新技	遠 藤 幸 雄	2
昭和48年度会員総会議事録		3
決 算 報 告		5
事業及び行事報告		6
昭和49年度 新役員		9
" 体操部新役員		9
事業及び行事計画		10
T B S 招待競技会成績		12
運 動 部	門 脇 春 男	13
第9回桜樹コンペ成績		14
会費領収について		15
会費値上げに関連して	菊 地 君 男	16
編 集 後 記		19

外国選手による新技

遠 藤 幸 雄

新技開発熱は東京オリンピック以後急速に広がったが、特にソ連のそれは国を挙げての感がある。そこで最近発表された新技を紹介してみたいと思う。

ゆか：本年3月にソ連の新人マルチェンコ選手が、「後方伸身宙返り1回ひねり——後方かかえ込み宙返り」を成功させて驚かせた。この技術は、西独のギンガ選手が鉄棒で発表したものである。

あん馬：上向き転向系の技術の進歩は、日本選手に端を発し世界的に流行しているのはうれしいことであるが、縦向き旋回となると、身体条件の不充分な日本選手はいまのところ他人まかせの感をまぬがれない。

馬端部——鞍部——馬端部と縦向き旋回で前方に移動し、しかも後方にも移動する」という技術を、ハンガリーの若手選手が演じている。ここまできると縦向き旋回移動をはじめて発表したハンガリーの特許という気さえする。

つり輪：終了技における月面宙返りの応用がソ連で盛んであり、しかも安定している。すでに塚原選手も2年前試みていた技であり、日本としても考えなければならないことである。

跳馬：「前転とびひねり——後方かかえ込み宙返り」は、本年3月堀出選手がソ連で発表し好評を得た技術であるが、昨年ユニバーシア

ード大会で、キューバのCUERVO選手がすでに発表したものである。

平行棒：「支持より前方回転——屈身逆懸垂——け上がり」の技術は、ソ連のマルチェンコ、コミサロフ両選手が発表している。大技とはいえないが、手の持ちかえ工夫は一考に値する。終了技には東独選手が「前方かかえ込み2回宙返り」を試みている。

鉄棒：月面宙返り以上の難技はまだみていない。従って本会所属の五十嵐選手の3回ひねり、あるいは成功を耳にする3回宙などは新技として強烈な武器となりえよう。

4 9.4.1 7 記

昭和48年度会員總會議事録

日時 昭和49年3月17日 午後1時～5時

場所 日本体育協會會議室

出席者

顧問 遠藤 幸雄

第1回卒 石井 征也, 稲橋 恒行

2 " 堀田 淳二

5 " 小栗 郁郎

6 " 鶴見 興人

7 " 海谷美代子

10 " 門脇 隆, 高波 司雄

箱根 修

11 " 椎野 芳拳, 綱島 路正

原 弘吉, 山本 好隆

12 " 伊東 恭一

14 " 岩本 英雄, 外山 宜男

山崎 雅昭

15 " (48年度卒) 林 富久寿

谷田部光則

以上20名

委任状

顧問 平野 平三

第2回卒 芳尾 明

3 " 金子 正史, 工藤 道弘

米田 賢一

4 " 菊地 君男, 木村 多喜

小俣里知子, 佐藤 誠

高田 信興, 高橋 房雄

早田 卓次

第5回卒 小松 武雄, 志賀 正昌

中島 元

6 " 河原 正昭, 塩田 和秀

真島 孝礼

7 " 岡本 公子, 佐藤 勲

砂野 泰男, 中原 剛

8 " 伊藤 勇, 影山 真一

川口 亨, 小柴 守夫

船木 政明, 安田 和明

山内 悟

9 " 赤松 正致, 朝倉 徳雄

伊藤 寛美, 武田 和子

林 昌幸, 湊 満雄

初山 芳雄

10 " 会田 充男, 安藤 泰行

飯島 好美, 井上 博

浦辺 由子, 近藤 明

鈴木 康夫, 千野 良一

津村 二郎, 堀田 敏明

松本 恭子

11 " 伊原 脩, 宇野 正信

神崎 悦子, 工藤 昌二

高橋 正典, 梅本 文子

舟山 忠広, 山田 隆士

12 " 斉藤多美子, 酒井 博行

佐藤 均, 平野 文世

渡辺 富代

- 13 回卒 菅野 秀俊, 佐々木 巖
高橋久美子, 田中 千文
中谷 秀明, 宮川 早苗
山村 英子, 若林みどり

- 14 " 青木 文次, 伊藤加奈子
遠藤 勲, 河内余志子
村上 吉正, 森田 博

以上74名分

挨拶 会長 稲橋 恒行

顧問 遠藤 幸雄

議長及び書記選出

議長 石井 征也

書記 原 弘吉, 海谷美代子

報 告

1. 昭和48年度事業及び行事報告について
標記について桜樹会関係小栗郁郎, 体操部関係遠藤幸雄両氏より報告があった。
(本誌P6~8参照)
2. 昭和48年度決算報告について
標記について鶴見興人総務より報告があった。(本誌P5参照)
3. 会計監査報告について
標記について監査の結果相違ない旨堀田淳二会計監査より報告があった。

議 題

1. 会則改正について

標記について内規第1条年会費1,000円を2,000円に値上げしたい旨幹事会よ

り提案があった。

※提案理由

諸物価高騰の折, (印刷代, 通信費等) 本会運営の財政面はますます厳しい状態にあり, また年々会員は増加しているにもかかわらず, 会費滞納者が多く, 収支のバランスは崩れがちである。

このような現状を考慮し, 現行額(1,000円)では本会の発展的運営は不可能であり値上げせざるを得ない。

上記幹事会案を討議の結果, 特に反対意見もなく, 49年度より年会費は2,000円とすることに決定した。

(但し, 昭和48年度卒業の新入会員に限り従来通り1,000円とする。)

2. 役員改選について

標記について第1案留任, 第2案若手起用, 第3案女子を1名加える以上3案が提案され, 挙手投票の結果第1案が採択された。従って昭和49年度役員は次の通り決定した。

会長 稲橋 恒行

副会長 石井 征也

同 平川 文雄

決 算 報 告

収 入 の 部

項 目	48年度予算	48年度決算	備 考
繰越金		3,505	
会 費	205,000	150,000	過年度分 26,000 48年度分 115,000 49年度以降分 9,000
雑収入	0	62,320	寄付金 15,000 実演収入 5,000 その他懇親会余剰金等
合 計	205,000	215,825	

支 出 の 部

項 目	48年度予算	48年度決算	備 考
補助費	30,000	26,956	インターハイ懇親会補助 5,000 インカレ祝勝会補助 20,000 その他
会議費	10,000	13,555	体協47年度分室代 5,000 " 48年度前払分 5,000 その他
事務通信費	30,000	31,600	名簿, 会報9号送料 222 通分 12, 210 会報10号送料 12, 155 その他はがき, 切手代
印刷費	10,000	2,700	会費納入状況一覧印刷代 2,700
雑 費	5,000	7,115	口座手数料 2,345 封筒, 他事務用品代 4,770
競技部	10,000	2,000	全日本参加料 2名分 (高橋正典, 五十嵐健夫)
編集部	80,000	107,700	会報9号 35,600 名簿 25,500 会報10号 46,600 (総会通知を含む), その他
審判部	5,000	0	
指導部	5,000	0	
予備費	20,000	18,500	アメリカ遠征 (高橋正典, 津村多賀子) 10,000 部 内選手権カップ代 3,500 元秋田体操協会会長大田 口氏香典 5,000
繰越金		5,699	
合 計	205,000	215,825	

昭和48年度収支決算を以上の通り報告いたします。

昭和49年3月17日

日本大学桜樹会総務

菊 地 君 男
鶴 見 興 人

監査の結果, 相違なきことを確認する。

昭和49年3月17日

日本大学桜樹会会計監査

堀 田 淳 二
芳 尾 明

4 8 年度事業及び行事報告

総 務

- | | | | | |
|---------------------|-----------|-------|------------------------|----------------|
| 1. 会報の発行 | 第 9号 | 4 8.5 | 第8回 (GMG八王子) | 49.13 0 |
| | 第10号 | 4 9.2 | | 参加15名 |
| 2. 会員名簿の発行 | | 4 8.5 | 4. 第4回桜樹スキースクール開催 | |
| 3. 親睦会の開催 | | | (志賀高原) | 49.1.3~5 参加11名 |
| (1) 各種大会地における親睦会の開催 | | | 5. その他 | |
| 東日本インカレ (米沢) | | | (1) アフリカ遠征 | |
| 全日本インカレ (駒沢) | | | 高橋正典 (11回卒), 津村多賀子 (10 | |
| 国 体 (船橋) | | | 回卒) | |
| 全日本 (札幌) | | | (2) 各種大会に審判員派遣 | |
| (2) 第10回忘年会 | | | (3) 幹事会 第1回 | 48.4.24 (体協) |
| 湯河原温泉 | 48.12.1~2 | 参加10名 | 第2回 | 7. 6 (") |
| (3) ゴルフコンペ | | | 第3回 | 7.21 (駒沢) |
| 第5回 (戸田CC) | 48.6.21 | 参加10名 | 第4回 | 9.21 (体協) |
| 第6回 (総成CC) | 48.8.30 | 参加12名 | 第5回 | 49.3. 7 (") |
| 第7回 (座間) | 48.11.13 | 参加10名 | (4) 会員総会 | 49.3.17 (体協) |

4 8 年度体操部行事報告

指 導 部

- | | | | |
|----------|-----------------|--------|-----------------|
| 3.28~4.3 | 春季強化合宿 | 4.2.2 | 対日体大TBS定期戦 |
| | 日大三島校舎 | 参加106名 | (東京体育館) 男女団体2位 |
| 4.6~1.5 | 国際競技会 (日ソ対抗) | 4.3.0 | 新入生歓迎会 (多摩動物園) |
| | (リガ市, レニングラード市) | 5.3~6 | 沖縄特別国体 (那覇市) |
| | 木村コーチ | 5.5~6 | ユニバーシアード予選 (駒沢) |

	梶山 3 位, 錦井 5 位, 矢部 1 位, 林田 4 位	10.27~28. 学生東西対抗 (京都市)	梶山 1 位, 川野 4 位, 矢部 1 位, 林田 4 位
6.1~3	東日本インカレ (米沢市) 男子団体 2 位, 女子団体 3 位, 梶山 2 位, 錦井 6 位, 矢部 1 位,	11.1~4 全日本選手権大会 (札幌市)	男子団体 2 位, 女子団体 2 位 梶山 8 位, 錦井 1 2 位, 五十嵐 1 3 位, 林田 5 位, 矢部 6 位, 宮本 1 0 位
6.15~17	NHK杯 (横浜市) 梶山 5 位, 五十嵐 6 位, 矢部 5 位, 宮本 1 0 位	11.13 体操部総会 (文理食堂)	
7.18~22	全日本インカレ (駒沢) 男子団体 1 位, 女子団体 2 位 梶山 1 位, 錦井 2 位, 寺元 3 位, 矢部 3 位	11.17~18 関東新人戦 (駒沢)	男子団体 2 位, 女子団体 2 位 千田 3 位
8.1~15	オーストラリア遠征 (シドニー他) 五十嵐健夫	11.24~25 中日カップ (名古屋市)	林田 (出場)
8.3~5	インターハイ (静岡市) 視察 遠藤, 早田	11.25 第 1 回部内選手権 (文理体育館)	梶山 1 位, 千田 2 位, 松山 3 位, 寺元 4 位, 岡崎 5 位, 鈴木 (良) 6 位
8.15~19	ユニバーシアード大会 (モスクワ)	12.1~2 国際選抜競技会 (日大両国講堂)	梶山, 矢部 (出場) 早田 (審判)
8.20~29	日・西独競技会 秋田県 遠藤, 高橋, 五十嵐, 西巻	12.12~13 女子 1 種公認審判員研修会 (体協)	木村, 上野
8.21	ジュニア大会 (大阪市) 西巻 2 位, 前山 8 位, 宮本 1 0 位	12.15~16 男子 1 種公認審判員研修会 (体協)	門脇, 遠藤, 小田原, 佐藤, 近藤, 小柴, 門脇 (隆), 金子, 小栗, 宇野, 苅込, 早田
9.11~26	中国遠征 (北京, 上海他) 遠藤, 高橋, 宮本	2.11 送別試合, 送別会 (文理体育館, 整美楽)	
10.14~19	国体 (船橋市)		
10.24	全日本インカレ初優勝祝賀会 体協スポーツマンクラブ		1 2 9 名 4 8 年度最優秀選手発表 (整美楽)

住広, 矢部, 西巻, 林田, 梶山 受講生 32名
3.3 2, 3種審判員講習会(男子) 3.6~10 春季強化合宿(日大三島校舎)
(文理) 参加 86名

49年度 新役員

会 長	稲橋 恒行	(審判部担当)	小栗 郁郎, 門脇 隆
副 会 長	石井 征也, 平川 文雄	ブロック幹事	
幹 事 長	吉川 輝	北海道	中島 元
総 務	菊地 君男, 鶴見 興人	東 北	宇野 正信
会計監査	堀田 淳二, 芳尾 明	関 東	荻込 和男
幹 事	上野 剛, 高田 信興	東 海	河内余志子
	朝倉 徳雄, 津村 二郎	北 陸	船木 政明
	外山 宜男, 谷田部光則	近 畿	小柴 守夫
(競技部担当)	原 弘吉, 五十嵐健夫	中 国	常井 晴道
(編集部担当)	小松 武雄, 海谷美代子	四 国	山崎 智彦
(指導部担当)	早田 卓次, 木村 多喜	九 州	堀田 敏明

49年度 体操部新役員

部 長	浜田 靖一	主 務	鈴木 良之(文4年)
副 部 長	門脇 春男	副 務	小谷 幸子(")
監 督	遠藤 幸雄	学 連	山田 晴一(")
コ ー チ	早田 卓次, 木村 多喜		増子 良行(文3年)
	五十嵐健夫		青木 久実(")
男子主将	寺元 良人(文4年)		久保田一行(文2年)
副将	錦井 利臣(")		三原賀津子(")
女子主将	林田 房美(")		

49年度 事業及び行事計画

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 会報の発行 第11号, 第12号 | 4) 忘年会 12月第1土曜日～日曜日 |
| 2. 会員名簿の発行 | 4. スキースクール開催 |
| 3. 親睦会等の開催 | 50年1月3日～5日 志賀高原 |
| 1) 現役部員との交歓会 | 5. 審判講習会 |
| 2) 各種大会地における懇親会 | 6. 会員総会 |
| 3) ゴルフコンペ | 50年3月第3日曜日 |

49年度 体操部及び体操協会行事計画

指 導 部

3.21～30	国際選択競技会 (モスクワ, リガ) 遠藤, 林田	7.6～7	日中競技会(横浜市)団体個人戦 " (北九州市)種目別
4.7	対日体大, TBS杯定期戦 (代々木第2体育館)	7.26～28	世界選手権最終予選 (東京)
4.27～29	日・東独競技会 団体個人戦	8.1～4	インターハイ (北九州市)
5.3～4	" 種目別	8.8～11	全日本インカレ (名古屋市)
5.25～26	世界選手権第2次予選会 (四日市市) 高橋, 五十嵐, 錦井, 寺元, 梶山, 長岡, 矢部, 林田, 宮本	8.14～15	全日本中学生大会 (大津)
5.中旬	新入生歓迎会	8.18	ジュニア大会 (東京)
5.中旬	東日本インカレ部内選考会	8.16～18	アメリカ高校チーム来日(東京他)
6.14～16	東日本インカレ (桐生市)	8.20～27	日韓高校スポーツ交流(ソウル)
6.上旬	全日本インカレ第一次選考会	9.2～6	アジア大会 (テヘラン)
6.下旬	" 最終選考会	10.20～27	世界選手権大会 (西独 ミュンヘン)
		10.20～25	国体 (水戸市)
		10.上旬	全日本選手権選考会 (文理)
		10.中旬	体操部総会

11.22~24	全日本選手権大会	(岡山市)	12.14~15	1種審判員認定試験(男女)	
11.30~12/1					(体協)
	中日カップ	(名古屋市)	12.上旬	第2回部内選手権大会・納会	(文理)
11.中旬	新体操全日本選手権	(米子市)	2.中旬	送別試合, 送別会	(文理)
12.7~8	国際選抜競技会		3.中旬	春季強化合宿	

男子日体大に勝つ!!

—— 第5回TBS招待競技会成績 ——

4 9.4.7 代々木第二体育館

TBS招待による日体大との定期戦も今年で5回を数えた。ついこの間始まったような気がしていたがもう5年目を迎えたわけである。

昨年日大男子がインカレを制覇したこともあって、この競技会が名実ともに学生体操界の雌雄を決する定期戦として各方面から注目されてきている。また、シーズン開幕を告げる競技会としても固定したファンをつかみ、一週おいて放映される試合の様子は、全国の体操ファンを楽しませているにちがいない。

今年は日大が当番校としてその準備にあたり、本会からも数多くの会員が役員あるいは審判員として競技の運営に協力し、今大会の成功に大きく貢献した。

ところで男子の得点争いは昨年のインカレの再現を思わせるものがあった。1種目6名のベスト6というこの競技会独特のルールのため、選手は少しのミスも許されず、インカレにも劣らない緊迫したムードが試合場を支配した。

結果は日大男子が初めて日体大を破り、5回目にしてようやくTBS杯を手中にしたのである。

以下参考のために今大会の競技方法を記しておこう。

1. 競技規則

男子 日本体操協会1972年版男子採

点規則競技Ⅱ及び跳馬については競技Ⅲのルールを適用する。

女子 日本体操協会1974年版女子採
点規則競技Ⅱのルールを適用する。

2. 競技規則

1) 両チーム12名のエントリーとし各種目毎に6名ずつ出場し、その6名の選手の得点合計をその種目のチーム得点とする。

また男子6種目、女子4種目の得点合計でそれぞれの団体選手権の順位を決定する。

2) 最終エントリーは競技開始の2時間前とする。

3) 1人の選手の最多出場種目数は男子4、女子3とする。

4) 演技種目についてはあらかじめ抽選をする。

5) 審判員は各チームより1種目1名ずつとし他の審判員は両チーム以外の審判員とする(注:審判員の資格は1種公認審判員とする。但し1種公認審判員が足りない場合は2種公認審判員が代る。)

成 績

(男子)

団体 優勝	322.70 (2.20点差)		
種目別 床	1位	錦井 利臣	9.45
		あん馬	
	1位	梶山 広司	9.25
	3位	野原 秀安	9.20
		つり輪	
	1位	梶山 広司	9.40
		跳馬	
	1位	鈴木 一弘	9.125
	3位	錦井 利臣	9.000
		平行棒	
	1位	梶山 広司	9.35
	2位	錦井 利臣	9.25

(女子)

団体 第2位	208.45 (3.75点差)		
種目別 平均台	3位	山宮登美枝	9.05
		平行棒	
	1位	林田 房美	9.40
	2位	宮本 敏子	9.25
		跳馬	
	1位	林田 房美	9.25
		床	
	1位	林田 房美	9.25

(出場者)

〔男子〕

寺元 良人	4年生	野原 秀安	4年生
西巻 洋一	"	木下 栄治	"
川野 耕二	"	梶山 広司	3年生
錦井 利臣	"	鈴木 一弘	"
佐々木武雄	"	前山真一郎	"
馬場 祐二	"	千田 修平	2年生

〔女子〕

林田 房美	4年生	小田 武子	2年生
杉村 久子	"	門脇 文	"
山本 恭子	3年生	矢野万喜子	"
山宮登美枝	"	西村久美子	1年生
宮本 敏子	"	今井久美子	"
保坂恵津子	2年生	佐藤 悦子	"

運 動 部

門 脇 春 男

今年も桜の季節とともに、他の運動部と同様に、わが体操部にも沢山の新人が全国各地から集ってきた。

さて、運動部という組織について考えてみると、全部が全部そうだと断定はできないが、一

般的に先輩・後輩、上級生・下級生の関係、いわゆる上下関係が非常にやかましいところである。このことは一概に良い悪いとはいえないが、能率という観点にたつて考えた場合、極めて意義のある関係だと思ふ。

例えば、新人がその部、あるいは学校のいろいろなしきたりとか日常の行動について2年生から教わり、そしてだんだんと慣れ育成する訳である。旧軍隊にあっても古参兵が新兵を、会社にあっても先輩が後輩を徐々に指導しその組織に馴染ませていくのである。この段階を経ずして、さらにその上の上級生、上司から直接手とり足とり教わるということは余り例がなく、また、あとになって無理がでてくる。この無理というのは、人生の長い間において徐々に学びとるべきものを一足とびに、しかも短期間に学ぼうとするところに所詮無理が生じてくるということである。

近年全国的に、各地で学園紛争が起ったが、これは初期教育期（小学校は小学校での、中学は中学での、高校は高校での……）特に初等教

育期で、教師や親が余りにも世話をやきすぎ、いわゆる過保護的教育が原因しているとも考えられる。即ち、過保護の状態^をで青年期を迎えれば、とかく自己中心の考えをもち、しかも他人依存、責任の転嫁など自己を律する厳しさに欠ける人格が形成されると思われるからである。

それぞれの年令層や職層での苦勞を経ずして短兵急的な成長を遂げることは、あとになって困ることがある。そういう意味での運動部の上下関係も、あながち古いものとはいきれない面もある。

今年入部した部員諸君も、じっくりと腰をすえて、わが体操部の進み方にとけ込んでもらいたいものである。

49.4.20

第9回桜樹コンペ

49.4.26 戸田カントリー

第9回桜樹コンペは、強風の吹き荒れる悪コンディションの中、戸田カントリーで行なわれた。結果は次の通り。

（尚、ネットで1ストロークリードした井上博は、初参加のため優勝は山中勝男となった）

氏名	Out	in	Out	Gross	Hdcp	Net	Rank
岩本 忠喜	50	58	62	170	45	125	4
吉川 輝	46	51	55	152	25.5	126.5	5
堀田 淳二	60	64	61	185	54	131	8
高田 信興	48	48	53	149	22.5	126.5	6
※阿部 信博	45	43	55	143	13.5	129.5	7
山中 勝男	37	41	42	120	3	117	2

氏名	Out	in	Out	Gross	Hdcp	Net	Rank
○井上 博	54	58	58	170	54	116	1
早田 卓次	51	50	56	157	24	133	9
○箱根 修	50	58	67	175	54	121	3
○菅野 秀俊	59	67	64	190	54	136	10

○印 初参加

※印 会員外参加

優勝 山中 勝男

準優勝 井上 博

第3位 箱根 修

D.C 吉川 輝, 高田 信興

N.P 山中 勝男, 高田 信興

珍プレー 堀田 淳二:連続30B

高田 信興:強風のためティーより

ごろげ落ちるボールをナイスショット

B.G 山中 勝男

B.B 早田 卓次

会費領収について

昭和49年2月17日以降,昭和49年4月

30日までの納入状況は次の通りです。

(注)()内は会費の年度をあらわします。

但し,過年度分については()内年度

(現金にて)○印49年度入会

3/7 稲橋 恒行 2,000(49)

稲橋 恭子 2,000()

石井 征也 2,000()

平川 文雄 2,000()

海谷 美代子 1,000(48)

堀田 淳二 2,000(49)

菊地 君男 1,000(48)

原 弘吉 2,000(49)

鶴見 興人 2,000()

3/8 菅野 秀俊 1,000(48)

3/17 金子 洋平 2,000()

小栗 郁郎 2,000()

網島 路正 2,000()

○林 富久寿 1,000()

山本 好隆 2,000()

箱根 修 2,000()

岩本 英雄 2,000()

鈴木 康夫 2,000(47,48)

まで完納されていない方もおりますので、別紙により各個人別納入状況をお知らせいたします。何卒よろしくご協力下さいますようお願い申し上げます。

4/7 ◦ 市毛 美喜雄 1,000(49)
 ◦ 椎原 英世 1,000(＃)
 ◦ 大木 米男 1,000(＃)
 ◦ 住広 晃 1,000(＃)
 ◦ 関 辰男 1,000(＃)
 ◦ 中島 清 1,000(＃)
 ◦ 三鼓 章平 1,000(＃)
 ◦ 宮川 和三 1,000(＃)
 ◦ 菅原 明雄 1,000(＃)
 ◦ 池田 一正 1,000(＃)
 赤嶺 芳弘 2,000(＃)
 木下 咲夫 2,000(＃)
 福田 竹子 2,000(＃)
 稗田 房子 2,000(＃)
 外山 宜男 2,000(＃)
 中島 孝 2,000(＃)
 菅野 秀俊 2,000(＃)

(口座にて)
 3/5 ◦ 矢部 信惠 1,000(49)
 ◦ 谷田部 光則 1,000(＃)
 ◦ 速田 幸子 1,000(＃)
 ◦ 並木 松子 1,000(＃)
 3/6 ◦ 福田 久恵 1,000(＃)
 3/12 ◦ 高田 ゆう子 1,000(＃)
 竹下 万亀 1,000(＃)
 3/13 ◦ 今成 洋子 1,000(＃)
 3/25 伊藤 加奈子 1,000(48)
 3/26 平野 文世 1,000(48)

会費値上げに関連して

総務 菊地 君 男

今年度より会費が値上げされることになった。昭和38年本会発足以来この仕事に携わってきた私としては、考えてみるとこの11年間、常に金がない、金がないといひ続けてきたようであつた。われながらあさましい気がする。

会費をきちんと納めている人にとってはかなり耳ざわりだったのではないかと思うのである。会務をあく以上、会費を納めていないからといって諸般の連絡をとらないわけにはいかな

い。従つて、ある一部の人の負担によつて本会は運営されてきたともいえるのである。

試みに、昭和38年度から昨年度まで11年間の収支の変遷を表にしてみた(次頁参照)。

これで見ると、多少の変動はあつても、本会は着実に発展の一途をたどつてきたかに見える。

しかし、詳細にわたつて検討してみると、金額の大小で本会の推移を考えることは適当でない

ことがわかる。

例えば、昭和45年度から会費収入が大巾に増加している。その一因として口座を開設したこともあげられるが、それ以上に会報の発行によって、本会に対する関心が高まったとみるべきであろう。しかしその年より支出も大巾に増大しているのである。会報の印刷代と送料で大半の予算は消える。会報発行のメリットとデメリットを考えたときジレンマに陥るのである。もう少し会費納入者の内訳を検証してみると次のことがいえる。

昭和45年度会費収入135,500円のうち、その年度の会費は62,000円であって残り73,500円は過年度ないしは、次年度以降分なのである。

つまり、1人で何ヶ年分かを納入したという人が沢山いたのである(納入者実数67名、全体の約40%)。同様46年度~48年度についても同じことがいえる。

(46年度納入者実数77名、全体の約35%、47年度実数125名、約45%、48年度実数118名、約40%)

このことを考えると、会費納入金額は増しているようで、実は一部の人達がまとめて納入しているのが実情なのである。

それから各年度の残高(いわゆる次年度への繰越金)の項をみると、46年度を除きどうにか黒字ではあるが、積み立てて資金源にするなどというにはほど遠い状態にある。少なくとも毎年5万~10万位の積み立てができれば、部に対する補助等も大巾にアップでき、B会本来の使命も果せると思うのだが。

このことは決して不可能ではなく、現会員の方すべてがその年度の会費を納入するならば、それだけでもかなりの財源が確保できるのである。11年間の収入合計1,227,917円、48年度残高5,699円では少しなさけない気がする。もちろん会務をあずかる私の責任でもあると反省している。

会費値上げに関連して、思いつくまま資料を広げてみたが、本会の実情を理解して戴くうえでいくらかでも参考になれば幸いである。

49.5.7

桜樹会収支変遷

年 度	収 入	支 出	残 高 (次年度繰越金)	会員数	備 考
38 (1,000)	27,000 (27,000)	17,460	9,540	31	
39 (1,000)	45,540 (32,000)	29,639	15,901	42	
40 (1,500)	116,176 (46,500)	105,350	10,826	52	
41 (1,500)	62,426 (40,000)	56,804	5,622	69	
42 (1,500)	34,122 (28,500)	33,343	779	90	
43 (1,500)	50,779 (50,000)	25,695	25,084	110	
44 (1,500)	68,024 (41,500)	41,183	26,841	133	
45 (1,000)	181,088 (135,500)	159,450	21,638	169	口座開設、会報創刊
46 (1,000)	164,687 (87,000)	206,504	△ 41,817	216	会報2回発刊
47 (1,000)	262,250 (181,000)	258,745	3,505	254	"
48 (1,000)	215,825 (150,000)	210,126	5,699	271	"
49 (2,000)	-	-	-	292	
(会費額)	(会費収入)				

編 集 後 記

会報編集と同時に、名簿を発行すべく準備してきた。いつものことだが、毎年住所がわからない会員が数名でることは、残念である。

毎回200通以上送付して10通位は「転居先不明」とか「あて所に本人が居ない」などの紙片をつけて戻ってくる。

300名近くの大世帯になれば完全無欠の名簿など不可能なのだろうか。

転居したなら誰だって転居通知を出すだろうから、その時本会総務あて出してもらえないだろうか。

今回の名簿を手にして、準会員の中に友人の名を見い出した人はぜひ一報戴きたい。

折から郵送料の倍ちかい値上げ案が出された。無駄な出費はさけたいものである。